

菱井将文ランサー、反撃の狼煙を上げる今季初勝利



SA4クラスは、今季も86/BRZレーズと掛け持ちで参戦する菱井将文選手がシーズン初優勝をあげた。



リーズ後半戦に突入した今年的全日本ジムカーナ選手権。その初戦は四国愛媛の高地に位置するハイランドパークみかわが舞台となった。5月に開催された全日本久万高原ラリーではサービス会場として使われた、元スキー場の駐車場がコースとして使用されるこの一戦は、今年初のフルパイロンジムカーナでもある。

一見するとフラットにも見えるが、コースはなだらかに傾斜しており、その微妙な勾配を読みきった走りが求められる。週末は天候に恵まれて2日間ともドライ路面が保たれた。コース設定は前半は比較的、速度の乗るセクションを

クリアした後に、徐々にタイトなスラローム、ターンをクリアするという設定。ゴール手前にも、きついスラロームが用意された。

PN1クラスは、ヒート1、福田大輔選手が1分10秒269で暫定トップに立つ。中間タイムは8番手と平凡なものだったが、「後半セクションでは、年に1回できるかどうかくらいのいいターンができた(笑)」という走りが効いて2番手に0.26秒のアドバンテージを築く。注目のヒート2では各選手、タイムダウン傾向となるが、最大のライバル、斉藤邦夫選手は中間タイムを詰めてしっかりとタイムアップ。しかし10秒457まで上げるのが精一杯。ラストゼ

ッケンの福田選手はミスコースに終わるも、ヒート1のタイムで逃げ切って第2戦に次ぐ2勝目をマークした。

「1本め勝負になるなという気はしてました。金曜からずっとターンで出遅れてる感じがあって、昨日の公開練習でも3番手だったので、リアの限界は下がる方向ではあったんですが、回り込む方にセットアップを煮詰めて行ったのが結果的には良かったと思います。邦夫さんが1本めのタイムのまま終わるとは思わなかったもので、逃げ切れてホッとしています」と福田選手は安堵の表情で振り返った。

前半の5戦で4人のウィナーが誕生と混戦となっているSA1クラス。その中で、ただ一人、



SA4&SC部門 / 1.SC部門は西原正樹選手が快勝。シリーズリーダーに立った。2.SC部門2位には野尻隆司選手が入り、今季2度目の表彰台を獲得。3.SA4津川信次選手は連勝記録を止められ、今季初の黒星を喫した。4.SC部門3位は大橋渡選手。5.SA4の3位には飯坂忠司選手が入った。6.「ここは路面が特殊なんで2本め勝負と思うとったんやけど」と振り返ったSA4菱井将文選手だが、ヒート1のタイムで逃げ切った。



PN1&PN4&SA2 / 7.PN1を制した福田大輔選手は全日本通算10勝めとなる記念すべき勝利を獲得。**8.9.10**.PN4クラスは、茅野成樹選手が今季初優勝(8.9.右)。野島孝宏選手(9.左.14)の独走に待ったをかけた。**11**.全日本久々の勝利目前に迫るも2位に終わったSA2隅田敏昭選手。**12**.PN1齊藤邦夫選手は2番手まで順位を上げるも勝利は果たせず。**13**.PN1小林キュウテン選手は3位に入賞。**14.15**.激戦区のSA2はパイロンを得意とする高江淳選手が逆転で今季3勝めをもち取った。**16**.PN4の3位には角岡隆志選手が入賞。**17**.SA2の3位には佐藤巧選手が入った。



PN3&SA1 / 18.19.SA1は全日本を追いかけて6年めの一色健太郎選手がヒート2、気迫の走りを見せて全日本初優勝を飾った。**20**.PN3で3位に入った川北忠選手。**21**.連勝を狙ったSA1小武拓矢選手だったが、3位にとどまった。**22**.PN3の2位には西野洋平選手が入賞。**23**.SA1若林拳人選手はヒート2、タイムを上げたが再逆転は果たせず。**24.25**.「昨日の2本めでこの走り方のツボがようやく掴めたので、今日はさっぱり走れた」と振り返ったPN3ユウ選手は第3戦から4連勝と波に乗った。



今季2勝をあげている昨年のチャンピオン、若林拳人選手がまずはヒート1、1分8秒680で首位に立つ。0.056秒差で前戦優勝の小武拓矢選手が続き、CR-X勢が1-2と速さを見せるが、ヒート2に入ると、このクラスもPN1同様、各選手、タイムが伸び悩み、小武選手も僅かにタイムダウン。しかしヒート1、3位の一色健太郎選手が自らマークしていた中間の暫定ベストをコンマ3秒塗り替えて後半セッションへ入ると、タイトなセッションでもパイロングリギリに寄せるターンを見せて1分7秒台に叩き込む。ラストゼッケンの若林選手もタイムを詰めるが7秒台には遠く届かず、一色選手が地元で全日本初優勝を飾った。

「2本めはなぜか自分でも凄く良く走れましたね(笑)。もちろん、いつも勝つつもりで走ってるんですけど、正直、まさか地元で、こんな大差で勝てるとは思ってなかったの、最高です。今年は全戦、表彰台に乗りながらも、あと一歩届かなかった頂点に立てた喜びを噛み締めていた。

一方、続くSA2クラスも、ここまで2勝を



26.27.「前戦が不成立になって時間が空いたことで問題点を整理できたことが結果的には良かった」。SA3は西森顕選手がパイロワークが冴えて今季初優勝。**28**.SA3のポイントリーダー小保洋平選手は2位に終わった。**29**.SA3の3位には久保真吾エキシージが入賞。**30**.PN2の2位入賞は河本晃一選手。**31**.同3位入賞の土手啓二朗選手。**32**.「2本とも満足できる走りのできたので良かった」。ヒート2のタイムを0.002秒上回ったヒート1のタイムで逃げ切った山野哲也選手。

ま、ラストゼッケンの高江選手がトライ。中間4番手と僅かに出遅れるも、ゴールタイムでは0.035秒という僅差で隅田選手を打ちちゃり、ライバルを突き放す3勝めをもち取った。

「パイロンは得意ですけど、ここはコースに合った動きが出せなくて過去2回も苦労したんですよ。2本めも行けるかどうか気持ち的には半々でしたけど、バックチで変えたセットが当たって昨日とは全然、違う動きになった。それが後半のターンでタイムを稼げたことに繋がったと思います」。臆ながらも見えてきたタイトルに、気持ちを新たにしていた。

マークしているのは高江淳選手ただ一人とSA1同様の激戦区となっている。その戦いを象徴するかのようヒート1からシリーズ上位陣がコンマ2秒の間にひしめくという大接戦に。ヒート2に入ると、その上位陣に割って入る3位につけていた隅田敏昭選手が0.25秒、タイムを詰めてトップに立つ。ベストは更新されないま